

# 輝くステージを支える愛情が、確かにある。



みの～れ住民劇団  
「演劇ファミリーMyu」メンバー  
**細谷 光央**さん

「みの～れのおかげで新しい自分を発見することができた」と語る細谷さん。

みの～れと共に生活するスタイル  
**Minole Life**  
のすすめ  
No.63

いわし雲が広がり、小さな秋が始まりました。水田には黄金色に輝く稲穂の絨毯が広がり、収穫の時期を迎えました。一粒の種もみからおおよそ621粒のお米が採れ、たった一粒の種もみは豊穣という素晴らしい可能性を持っているそうです。まもなく10歳を迎えるみの～れと同じですね。今回は、みの～れ住民劇団「演劇ファミリーMyu」にも所属し、10歳記念ミュージカルで映像記録を担当している大谷区にお住いの細谷光央さん取材する。

## 映像の中には愛情たっぷり

「みの～れのこけら落とし公演『田んぼの神様』に子ども二人がキャストで出演し、妻がスタッフとしてみの～れに関わっていました。私はその二日間の公演を観に行くだけでした」と話す細谷さんは、この後行われた子どもたちが出演する公演も、ただ観に行くだけだった。しかし、演劇ファミリーMyuオリジナル作品「こぶけやきがないでいる」の公演のときに転機が訪れる。「みの～れ職員さんからDVDを作って欲しいと言われ、みの～れ撮ったものをDVDにするだけかと思っただけで、軽い気持ちで引き受けました。それが実は映像編集も兼ねていたんです。編集は、業者が作ったゲネプロのDVDと野手さん(当時の演劇ファミリーMyu代表の旦那さんと私が撮ったビデオを合わせて行ったんです)がそれを楽しくて、楽しくて、(笑)やったらハマっちゃったんですよ！」と楽しく話してくれました。

シヨップの成果発表『真夏の白屋夢』では、「自分のビデオカメラを持ち込み、二回公演だったので一度目と二度目を角度を変えて撮って編集しようと思った。今思つくと、とてもいいことをしちやったなと思つています。結局、この撮影の仕方なら、もう辞めようという事になり、一回の公演をカメラ5台くらい使つて撮影し、編集しています。また、「今までは子どもたちの運動会や発表会でビデオを撮っていた程度でした。だから映像を撮影・編集するたびに、いろいろなハプニングがありましたね。実はそれが怖いので、複数のカメラで撮っているってのもあるんです(笑)。本番の時は楽しみよりも緊張のほうが大きいですね。下手から上手。上手から下手。センターからと分かれて撮っているの、練習から立ち会ひ、脚本にカット割りを書き込んでいます。出演者も一発勝負ですが、撮る方も一生懸命やっています。キャストが一生懸命たら大変ですから。素人なのでホームビデオのレベルですが、愛情はたっぷり入っています。愛情ではプロには負けていないなと感じています」と笑顔で嬉しそうに話してくれました。

「この映像記録・編集を7年間続けています。最初の頃は客席前方で撮っていました。客席前方で撮っていたら、言ってもらえるようになり、だんだんカメラの位置が前になつてきました。趣味も映像になつてきました。幸せな映像に、いえ、幸せです。たぶん、みの～れと関わっていないから、休みの日は家でボーっとしているか、畑の草刈りくらいです。から、みの～れ10歳記念ミュージカル『未来ロケット』で34作目になりますね。そのうち演劇ファミリーMyu関連事業を編集したのは20本くらいあります。演劇ファミリーMyuはキャストだとか、スタッフだとか、垣根がないので、本番前にもみんなで気合を入れる時も打ち上げの時も私も一緒に参加しています。地域の中にみの～れ良かつた」と話してくれました。家族5人で演劇ファミリーMyuと一緒に成長してきた細谷さん一家。11月3日・4日に行われるみの～れ10歳記念ミュージカル『未来ロケット』も家族総出で関わっています。是非、ご覧ください。

(藤田 佐知子)